

## マメ科優先草地に対する北方型イネ科草種追播方法に関する研究

野口 義之・上田 允祥

(福岡県種畜場)

NOGUCHI, Y. and UEDA, M.

## Study on the Methods of Reseeding Temperate Grass Species in the Ladino Clover Occupying Pasture.

マメ科優先草地に対する簡易なイネ科草種の追播方法について検討をおこなった。

## 試験方法

1966年 a (10. 14), b (10. 28) 2草地に地表処理(ロータリ, カルチ, ハロー, 除草剤など)及び無処理で追播, イタリアンライグラス 1 kg, オーチャドグラス 1.5 kg/10a 散播 1967年 10月30日(草地砂壤土)に表1の処理で追播。

第1表 試験処理

A	処 理		播種量処理 (kg/10a)
	処 理		
A	ロータリ粗耕		I, II,
B	除草剤散布		I, II,
C	低刈(3~5cm)		I, II, III,
D	普通刈		I, II, III,
E	無追播		

1967年度機械処理をロータリ粗耕のみとし, 低刈についてはクローバ草丈3~5cm高に刈取表面散播。施肥量(kg/a) N 0.9 kg, P<sub>2</sub>O<sub>5</sub> 1.5 kg, K<sub>2</sub>O 0.75 kg, 刈取毎 NO 45kg K<sub>2</sub>O 0.25kg 追肥, 45cm草丈利用3月~6月6回刈。試験区面積9m<sup>2</sup>, 3反覆, 乱塊法。

## 試験結果及び考察

第2表 追播1カ月後の生育

	I		II		III	
	発芽数	被度	発芽数	被度	発芽数	被度
A	240	53%	590	30		
B	120	83	400	83		
C	240	82	560	65	640	67
D	140	88	330	94	600	93

発芽数はイタリアンライグラス 1m<sup>2</sup> 当り  
被度欄はラジノクローバ(%)

機械処理A区と不耕区の間にはイタリアンライグラスの定着に差があり, ラジノクローバの抑制については粗耕, 低刈区に効果が高い(表2)。

1966年 a b 草地の成績において機械処理は同様の傾向を示し, 不耕起処理との間に差が認められる。草種ではイタリアンライグラスに効果がみられ, オーチャドグラスについては効果がなかった。

又砂壤土質がイタリアンライグラスの定着に良好な傾向がみられる。1966年追播において無処理区でも200~300本/m<sup>2</sup>以上の発芽数が得られたが, 機械処理と同程度の発芽数を確保する目的で1967年播種量を I, II, III kg/10a 追播。

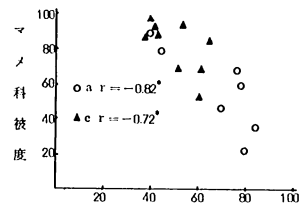


図1 年間合計乾物草量中イネ科草種割合

イタリアンライグラス追播効果は追播後1カ月のマメ科被度及び発芽数が密接な関係を有する(図1)クローバ被度50%以下の場合, イタリアンライグラスの割合75%以上が可能。無処理散播区で被度が50%以上の場合においても機械処理と同程度の発芽数が得られた場合イネ科率60%以上になることが分った。

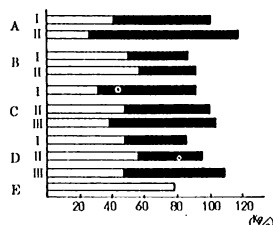


図2 草種別乾物収量

■ イタリアンライグラス  
□ ラジノクローバ

## 総括

イネ科追播効果は追播後1カ月の発芽数, マメ科被度と密接な関係がある。マメ科の被度を70%以下に抑制する方法の場合 1 kg/10a の播種で追播効果が期待できる。無処理の場合マメ科の再生は早く90%前後に達する。この場合イタリアンライグラスの播種量を増加して個体数の確保をはかる必要がある。オーチャドの効果は低い。又砂壤土質がイネ科の定着に良好な結果が得られた。